

1

守  
る

礼

世代

4  
道具

5  
着色

6  
直筆

2

1  
妹の紅子

2  
めったに

3  
ウ

4  
I  
このま

II  
こわか

5  
③  
ウ

④  
イ

6  
母の笑顔

7  
手をのばした

8  
イ

9  
イ

3

1  
デザイン

2  
I  
しや

II  
熱さ

3  
洗濯もの

(3 完答)

4  
I  
洗濯機の上

II  
何も物が置

5  
a  
便利

b  
不便

6  
目的

7  
機能

8  
文化

配点	
1	各2点×6=12点
2・3	各4点×22=88点
〈計〉100点	

1

1 かんたんな漢字だからこそ、確実に正解できるように書いていねいに書こう。「護る」とも書くが、「守る」で覚えておけばよい。  
 2 「札」としないようにしよう。また、部首がころもへんではなく、しめすへんであることにも注意しよう。  
 3 「世」は、正しい筆順をもう一度確認しておこう。「代」の右側を「戈」と書かないように気をつけよう。

4 「道」のしんによは二画ではなくきちんと三画で書こう。「具」は「貝」としないようにしよう。

5 「着」の三画目から七画目に付けてを正確に書こう。「王」のあとに「ノ」を書く。

6 「直筆」とは、「本人自身が直接に筆を取って書くこと。また、その書いたもの」という意味である。

2

1 直前に「そう気づいたのは小学二年生のときだ」とあるので、「あたし」が小学二年生のときに何があったのか、と考える。本文の十六行目に「あたしが二年生の五月だった」と書かれていることから、この行から後の場面をさしていると思われる。

2 指示語はふつう直前の内容をさすので、まずはここより前をさがす。前の行に「母はどこか憂鬱そうで、つかれた顔をしていた」とあるが、「どういう人ですか」という問い方にも指定字数にも合わない。さらにさかのぼると、前の行に「母は、めったに笑わない人だった」とある。

3 Bは、二行前の「無理に上手じゃないことをさせるのはかわいそうだろ」という父の発言に対する答えにあたる。Bがふくまれている一文のはじめの「だから」に注目したい。「あたし」は、箸が上手につかえない自分と笑うことが上手にできない母とを重ね合わせ、自分は上手に箸がつかえないことを責められると悲しいから、母も上手に笑えないことを責められると悲しいはずだ、と考えたのである。ちなみに原文では、「そうだね」となっている。

4 線②の直後の三文に注目しよう。その二文目の最後が「くからだ」となっているから、これが泣いている理由になるとわかる。また、「泣いている」理由を聞かれているので、気持ちをお知らせすることばも必要だということになる。三文目に「こわくてこわくて」とあるので、これを五字で言いかえていることはさがす。

5 (3)は、まず直前の「痛かったけれど」という表現から考える。マイナスの表現の「痛かった」と(3)が逆接の関係の「けれど」でつながられているので、(3)にはプラスの表現がある。直後の「これ(右手をにぎられたこと)で置いていかれたり、母を見失うことがないと思った」という表現から、「あたし」の安心した気持ちをあらわす「ホッとした」がはいる。(4)は、母の見たことのない笑顔を見て「とてもやさしくてきれいだ」と思っていることや、三行後で「幸せで、おなかぐすぐつたくなった」とあることから、「あたし」の胸が高鳴る気持ちをあらわす「どきどきした」がはいる。

6 線⑤の六行前から見ると、「あたし」が母の笑顔に心をうばわれているようすが読み取れるので、それが「あたし」の「幸せ」な気持ちにつながったと考えられる。また、線⑤の時点では、「あたし」はまだ赤ちゃんをきちんと見ていないので、「赤ちゃん」や「妹の紅子」は答えとしてふさわしくないことにも気づきたい。

7 「ぬき出して」答えるのではなく、「組み合わせ」答えることに気をつけよう。Cの直前の「赤ちゃんのほったにふれよう」という表現と、二行後の「あたしはのびした手を宙にうかしたままの姿勢で」という表現から、「あたし」がこの時、「手」を「のびした」とわかるだろう。

8 「あてはまらないもの」を選ぶことに注意しよう。この場面では父は日和に対して一生懸命話しかけていることから、日和に対して気をつけていることがわかる。

9 「もう赤ちゃんをさわろうとはしなかった」のは、前にさわろうとした時に何かマイナスのことが起こったからではないか、という見当がつく。母の、「ダメ！ ばいきんがつく」ということばやからだをそらす態度などにショックを受けたのである。

3

1 Aがふくまれている段落は、「デザイン」について書かれていることから考えよう。

2 線①についてはその後の三行でくわしく説明されている。「糸底」がないことよって、「すっきりした斬新なデザイン」になるというプラスの面がある一方で、「熱さを防ぐという機能」がなくなるというマイナスの面もあるということである。ただし、「すっきりした斬新なデザイン」では「八字」という字数に合わないから、字数に合う同意表現をさがさなくてはいけない。「しゃれた」とは、「今風であかぬけた」という意味である。

3 洗濯機の本来の目的について聞かれているのである。「どういうものですか」と聞かれていることもさがす際のヒントとなる。

4 線③の直後に「それは」とあるので、ここから先に「困ったこと」についての説明が書かれていると見当がつくだろう。「それは」の後に「この洗濯機の上面全体が斜めになっていること」とあるので、ここがまず答えとなる。しかし、これだけでは、「斜めにならなければ困るのか」までわからないから、説明不足である。線③の三行後の「上面全体が斜めになっているから、洗濯機の上に何も物が置けない」という部分にも注目しよう。

5 aがふくまれている一文と、その次の一文から、aにはプラスの表現がはいるとわかる。筆者は新しい洗濯機に対してどういうプラスの印象を持っているのか。

6 線④の「物」とは、直前の文の「特殊な機能のためにデザインされた物」であり、これをわかりやすく言いかえると、「ひとつの機能しかない物」となる。さらに、本文の八行目から、「機能」は「目的」を満たすためのものであり、「ひとつの機能しかない物」はひとつの「目的」しか満たせないことになる。そうすると、「目的」の数だけ物がふえることになるのである。

7 文章全体から、筆者は「デザイン」も大切だが「機能」も大切だと思っていることが読み取れる。それらを両立させたものを作るべきだと思っっているのである。

8 ①の文から、もどすべきところの直前には「いろいろな物に対応できる柔軟さがなくデザイン重視の物」が複数並べられていることがわかる。さらに、②の文の「入る」「入れる」ということばから、「座席の前の物入れ」の説明の後にもどせばよいということになる。「直後」の二字を答えることにも注意したい。

以上